

男女共同参画推進連携会議 企画委員会 議事概要

1. 日 時 : 平成28年6月2日(木) 10時～12時
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館8階特別中会議室
3. 議 題 :
 1. 最近の男女共同参画・女性活躍推進の動きについて
 2. 平成27年度男女共同参画推進連携会議の取組状況について
 3. パンフレット「ひとりひとりが幸せな社会のために」の改訂について
 4. 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業の採択について
 5. 男女共同参画推進連携会議の今後の活動について

4. 出席者 :

(有識者議員)

飯田議員、明石議員、石井議員、犬塚議員、大崎議員、北村議員、権藤議員、千代田議員、徳倉議員、林議員、村山議員、室伏議員、山屋議員、横田議員

(事務局)

武川 内閣府男女共同参画局長、華房 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、岡田 内閣府男女共同参画局総務課長、石橋 内閣府男女共同参画局男女共同参画推進官、大川内 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

(議長等の交代について)

事務局より羽入前議長の辞任、飯田副議長の議長代理就任及び室伏議員の議員就任について報告後、飯田議長代理及び室伏議員より挨拶が行われた。

(最近の男女共同参画・女性活躍推進関連の取組について)

資料1に基づき、内閣府岡田総務課長より報告があった。

(男女共同参画推進連携会議およびチーム活動の報告について)

資料2-1に基づき、事務局より連携会議全体の活動について報告後、資料2-2～2-4に基づき、明石議員、徳倉議員、横田議員より各チームの活動状況について報告があった。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・女性の起業家の継続率の低さや、女性の起業分野に偏りがあることなどについて、データをもとに課題を見つめなおすことが必要である。
- ・次世代への働きかけについて、アメリカ大使館からの要請で女子中高生に向けたエンパワーメントのリーダーシッププログラム(GO GIRLS! PROGRAM)について募集したところ、300名を超える応募があった。地方からの応募も多く、反響が大きかったので、もっとこういった取組を進めていくべきだと思った。今後、10月まで4回にわたって行うため、チーム会合でも報告していきたい。
- ・「デジタルエコノミー」がテーマの中心となったG20のWomen's summitにおいて、各国から、これからはプログラミングと起業スキルを若い女性のBasic skillにしないといけないという発表があった。また、オーストラリアでは、起業にあたって女性より男性の方が

得意意識が高いという発表もあった。日本での現状はどうかということと、また、技術革新とグローバル化が進展し、産業や雇用の在り方が変わっていく中で起業による女性の経済的エンパワーメントは大きいと思われるため、次世代への働きかけとも連動していったらよいのではないか。

- ・女性のエンパワーメント促進チームでは、WEPs や「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について、特に地方に多い中小企業への普及が課題の一つ。静岡県では、女性の活躍を推進する「ふじのくに女性活躍応援会議」というものがあり、ここで WEPs や「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について広報する機会があったが、知らない方が大変多かった。こういった組織への働きかけができるるとよい周知になるため、地方での組織の情報を集約し、発信を図るとよい。

上記の意見を踏まえつつ、各チームコーディネーターと内閣府にて今後のチーム活動の内容を検討し、進めることとした。

(パンフレット「ひとりひとりが幸せな社会のために」の改訂について)

事務局より資料 3-1~3-2 を説明後、意見交換を行った。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・G7 の前に、外務省が中心となって「女性の活躍推進のための開発戦略」が策定されており、年表への掲載を検討いただきたい。
- ・「共働き世帯数の推移」に記載の、男性雇用者と無業の妻から成る世帯数の比較について、1.5 倍ほどの差があるため、「上回っている」ではなくて、「1.5 倍」などと具体的な数値を示した方がよい。
- ・仕事と介護の両立のグラフについて、小数点以下の数値も記載するべき。
- ・学校種類別の進学率について、「ほかの先進国と比較するといまだ低水準」とあるが、国際比較のデータは掲載されていないため、括弧書き等で他国の事例を掲載するべき。
- ・第 4 次男女共同参画基本計画については、重要な点については色を変えるなどして強調すべき。また、「目指すべき社会」ではなく、「第 4 次男女共同参画基本計画で改めて強調している視点」を載せるのも一案かと思う。
- ・昨年度のパンフレットの踏襲となっているが、厚生労働省の女性活躍推進企業のデータ等、新しい施策に関するホームページの URL を載せてはどうか。
- ・多くの情報が記載されているため、参考にはなるが、一方、見る側が大変であるため、次回からは掲載する情報を取捨選択するべき。また、中高生など次世代向けのもっと簡潔なものを作成して Web に掲載してはどうか。
- ・起業についてのデータがないので、女性の起業の割合などについて、次年度以降掲載を検討いただきたい。

上記の意見も踏まえつつ、引き続き内閣府にてパンフレット作成を進めることとした。

(国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業の採択について)

事務局より資料 4-1~4-3、共催団体企画案一覧を説明後、審査を行い、今年度実施の共催事業として、以下の団体からの企画案を採択することとした。

- ・一般社団法人東京ニュービジネス協議会、J300 実行委員会
- ・特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会、公益社団法人ガールスカウト日本連盟 他
- ・日本弁護士連合会

- ・BPW 札幌クラブ、特定非営利活動法人日本 BPW 連合会 他
- ・一般社団法人日本ヒープ協議会
- ・一般社団法人日本女性科学者の会

採択された企画案について、委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・全企画案について、評価の仕方としてはアンケート実施が多いが、アンケートの主な項目を統一し、互いの企画を比較できるようにしてはどうか。
- ・オブザーバーとして他団体を入れると、参加した団体も勉強になり、主催団体も外部の視点が盛り込めるのではないか。
- ・複数年継続している事業については、より発展的になるよう、内閣府からもアドバイスしていくべき。
- ・共催事業の報告の場を国民にも還元するような場も設けるべき。
→事務局より、HP 上で事業報告を掲載している旨、回答した。
- ・共催事業について、女性の進出が遅れている業界などにも案内し、男女共同参画社会の実現のヒントにしてもらうとよい。
- ・地方の人は事業に参加できない場合が多い。地域と衛星中継でつないだり、録画したものを後日見られるようにするなど、地域の目にも触れるようにしてはどうか。
- ・事業をその場限りにするのではなく、特に継続して実施している事業については、継続による波及効果の検証や追跡評価をする必要がある。
- ・テーマが総花的なものがあるが、単なる情報提供や状況調査にとどまるものでなく、次にあるものは何かを考えるような形にしたい。共催事業の資金は税金であることを認識し、よりよいものをつくってほしい。
- ・地方での開催が少ないため、地方での開催も増やせるように、事業募集に際して周知を工夫していただきたい。
- ・地域で事業を行う場合、東京のイベント業者がつくと、業者の移動旅費などがかさむ場合もある。イベント業者の選定時は、安かろう、悪かろうにならないよう配慮してほしい。
- ・男女共同参画事業に取り組みたいが、企画書を書ける人材がいない組織もある。企画書を書ける人材がいる団体は採択されやすく、また、継続して実施することによりレベルがあがっていくため、そうでない団体の企画と差が開き、後者の採択はさらに難しくなるケースもあると思われる。よって、例えば、継続案件と、それ以外のすそ野を広げるための案件を分けて選定する方法もよいのではないか。
- ・地方での事業を活発にしていきたい。地方でイベントを実施するためには、横断的にさまざまな団体が連携して取り組まないと盛り上がらない。ネットワークがあるところばかりとは限らないので、有効な事業を検討している団体については、ネットワークづくりの支援をできるとよいのではないか。

上記の意見も踏まえ、引き続き内閣府にて事業の検討を進めることとした。

(男女共同参画推進連携会議の今後の活動について)

事務局より資料 5 を説明し、今後の活動について確認を行った。

以 上